

次年度カリキュラム研究の方向性

— 令和虹の原型 —

■ 今年度の取組をふり返って

今年度は、「カリマネの新スタイル」の取組を通して、校内で行われているさまざまな会議や組織の役割を見直し、組織開発の視点を重視した改革を進めてきました。

特に、教育課程委員会と研究推進委員会の二つの組織に着目し、それぞれの成果と課題を整理・可視化しながら、教職員の意識改革に時間をかけて取り組んできました。

その結果、「教育課程(令和 8 年度版)」を中心とした**次年度カリキュラム研究の方向性(令和虹の原型)**について、2 度の職員会議を経て、全体の合意を得ることができました。

■ 令和 8 年度 教育課程編成の基本方針(概要)

欲張らず、地道に、複数年かけて取り組むため、以下の 4 点に焦点化します。

- ① 学習指導要領に基づく確かな学びの充実
各教科等の目標・内容の確実な習得と、学部間の系統性、教科間の関連性を意識した指導の充実
- ② 学部間の接続を意識したキャリア教育の充実
上級生の姿に学び、将来の自分を思い描く力を育てる取組の充実
- ③ 個別最適な学びと協働的な学びの実現
障害の重度化・重複化・多様化に応じた学びの在り方の追究
- ④ 心の教育の充実
自己肯定感を育み、思いやりや感謝の心を大切にする教育の推進

■ 各部共通で取り組むカリキュラムの見直し

各教科等の年間指導計画について、次の三つの視点から検証・改善を行います。

- ☐ 各単元の授業時数は適切か
- ☐ 1 年間で扱う単元数は適切か
- ☐ 学部・学年間、教科間の系統性や関連性に改善の余地はないか

「増やす」ことよりも、「整理し、精選する」ことを大切にします。

■ 働き方改革の視点から

カリキュラム改善とあわせて、教職員の働き方改革の視点からも検討を進めます。

- ・ 教材作成・授業準備にかかる負担の軽減
- ・ 教材・教具の整理と共有の仕組みづくり
- ・ 校内で活用できる教材情報のネットワーク化

■ おわりに

次年度のカリキュラム研究は、新しいことを増やすことが目的ではありません。

これまでの実践を見直し、整え、つなぎ直すことを通して、児童生徒の学びの質を高めるとともに、教職員一人一人が働きやすい学校づくりを目指します。

『令和7年度 学校経営方針』で、学校経営の重点取組事項の一つに「②小・中・高一貫した教育課程の編成と系統性のある指導の充実～」を掲げています。



「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす! -

「教育課程編成における課題（カリキュラム課題）」としてどのようなものが考えられるか？

- 教員間での「手立て」の共通理解が不十分である。
- 単元の学習をどうやって計画していいかが難しい。
- 職員入れ替えが多く、年度が改まった際の引継が難しい。
など



共通理解のツールとなる「単元シート（仮称）」を取り入れた実践が効果的ではないか。

ただし

一からシートを作るのではなく、
既存の物を整理して、必要な情報のみにしていく
「よりシンプルに！より使いやすく！」



- ・教材の場所などを明記できるようにして、教材作成に掛かる時間や負担を軽減してほしい。
- ・必要な情報が何かを整理した上で、盛り込みすぎないようにし、取組が負担とならないように。

※「単元シート(仮称)」の作成・検討対象とする教科等については、各部が「今年度これに取り組む」というものに焦点化してスタートする。

(小…生活科、中…職業、社会科、高…職業、道徳科)

単元シート（仮称）

【R8 研究推進委員会の役割とは？】

→「単元シート(仮称)」の作成・運用を通した
カリキュラム研究(＝校内研究と教育課程編成との一体化)

- a) 現在、各先生方が作成しているものを持ちよって(いくつかピックアップして)、
事前協議(研究主任・各部教務主任)する。

中学部や高等部の
生徒の中で、下学部の
各段階の目標・内容を
ねらう場合には、
小学部や中学部で
作成したシートを
参考にできる。

小学部で現在
作成・使用して
いるシート

中学部で現在
作成・使用して
いるシート

高等部で現在
作成・使用して
いるシート

各部（小・中・高）で「共通」
の項目は何だろうか？

- 「単元シート（仮称）」に反映
できる、共通の「フレーム」や
記入の仕方などの協議
＝ R 8 研究推進委員会の役割

- b) 研究推進委員会で「モデル」を作って先生方へ提案する。